

2013年1月18日

第665回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 坂元 龍三 東洋紡株式会社 代表取締役社長）は、本日11時より第665回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 「WEB 展示会併催・先端繊維素材シンポジウム」について

「日本化繊産業の先進性と先端繊維素材の未来社会への貢献」をテーマにした新たな発信事業として「WEB 展示会併催・先端繊維素材シンポジウム」の開催について報告がありました。

本イベントは、日本化学繊維協会と日本経済新聞社が主催となり、炭素繊維協会、繊維関連学会、繊維評価機関等と連携してオールジャパンの体制で開催します。

イベントの内容は資料1の通りです。

2. エコプロダクツ展 2012 への出展報告

第14回目となる「エコプロダクツ 2012」が昨年12月13日（木）～15日（土）の3日間、東京ビッグサイトにて約18万人の来場者を集め、盛大に開催されました。

化繊協会コーナーでは、過去最多9社（帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、セーレン、ダイワボウ）が参加して、「化学せんいでスマートライフ！ グリーンな未来に貢献する化学せんい」のテーマで、9回目となる展示を行いました。

環境問題に役立つ高機能繊維への関心は、一般層・ビジネス層を問わず年々高まっており、より詳しい説明を求めてくる来場者が増えていることから、今回初めて「教室形式」のブースとして一日あたり5回「化学せんいおもしろ実験教室」を開催。毎回20名程度が参加して、大変盛況でした。

個々の展示品では、「家庭用浄水器（中空糸膜フィルターでの水処理実験）」、「炭素繊維やアラミド繊維の軽量コンポジット」、「軽量クッション」、「通気コントロール素材」、「接触冷感素材」、「吸湿発熱素材」が幅広い層において関心を集めていました。

3. 2012 年の内外の化学繊維生産動向

2012 年の世界の化学繊維生産動向について、日本化学繊維協会が各国の至近の発表値をもとに推定し、その報告を行いました。概要は以下の通りです。

2012 年の世界の繊維生産は前年比 2%増の 7,937 万トンと史上最高を記録しました。しかし伸び率は、リーマンショック以降順調に回復したのと比較すると、2012 年は低調にとどまりました。化学繊維は 5%増の 5,203 万トンと初めて 5,000 万トンを上回りました。内訳は合繊（オレフィン繊維を除く）が 4%増の 4,799 万トン、セルロース繊維（アセテート・トウを除く）が 11%増の 404 万トンとなりました。一方、綿は綿花価格の下落から 4%減の 2,608 万トンと減少に転じました。

化学繊維の国・地域別生産は、中国が 11%増の 3,646 万トンと増加し、世界生産に占める比率も前年の 66%から 70%に拡大しました。また米国が 5%増となった一方、台湾、日本は 5%近く減少、西欧は 4%減少しました。

主要品種では、アクリル S が微減となった他はいずれも増加しました。ポリエステルはフィラメントが 6%増の 2,681 万トン、同ステープルが 6%増の 1,479 万トン。ナイロンは 7%増の 403 万トン、アクリル S は 1%減の 204 万トンでした。

4. 最近の通商・貿易動向

各国の至近の貿易統計などを基に 2012 年の世界の繊維品貿易および主要国の繊維品輸出の動向、および FTA の動きを中心とした最近の通商問題をまとめました。その概要は以下の通りです。

2012 年の世界の繊維品貿易は、前年までの高い伸びから一転横ばい／微増にとどまる見通しとなりました。主要国の繊維品輸出をみると、中国、ベトナム、バングラデシュ等一部の国を除き軒並み前年実績割れとなった模様です。

一方、2012 年の日本の繊維品貿易動向は、輸出が前年同期比 3%減、輸入は 1%増となる見込みです。輸出入とも、中国が最大の相手国ですが、FTA の効果もあり、アセアンのシェア拡大が続いております。

日本の EPA 交渉状況では、2013 年 1 月現在、日本はアセアンを中心に 12 カ国、1 地域の 13 本の EPA を締結済みです。但し、繊維貿易全体に占める日本の EPA 対象国地域の比率は、2011 年の輸出で 21%、輸入で 13%とまだ低く、韓国等に後れをとっております。しかし、2013 年中には、「日中韓」、「日 EU」、「TPP」、「RCEP」といった欧米、アジアの大市場との FTA が大きく加速する可能性があり、これらの FTA が締結すれば、日本の繊維貿易にとって FTA カバー率が大幅に上昇

する見通しとなっています。

FTA の繊維貿易に与える効果については、2010 年までにアセアンを軸にした FTA ネットワークが完成したことから、アセアンを軸とした繊維貿易が大きく拡大していること、また、韓国は、EU、米国との FTA の締結を機に、繊維品貿易が拡大していることなどからその効果が示されているものとみられます。

※詳しい内容をお知りになりたい場合はご連絡ください。

担当：日本化学繊維協会 技術グループ（03-3241-2312）

以上

2013年1月18日

「WEB 展示会併催・先端繊維素材シンポジウム」について

日本化学繊維協会では、「日本化繊産業の先進性と先端繊維素材の未来社会への貢献」をテーマにした新たな発信事業について検討し、この度、高性能繊維（アラミド繊維、炭素繊維、超高分子量ポリエチレン繊維等）や高機能繊維（ユーザーニーズに対応した様々な機能性を備えた繊維）などの先端繊維素材を取り上げたイベントを開催することと致しましたのでお知らせします。

近年、地球温暖化をはじめとする環境問題、省エネ・節電意識の高まり、高齢化の進展等から、環境・安全・快適・健康等が、商品開発の重要なキーワードに位置づけられています。これに対応して、軽くて強く、様々な機能性を備えた先端繊維は、有効なソリューションを提供しうる素材として、ヘルスケアから航空宇宙まで、幅広い領域から注目を集めています。

こうした中、日本化学繊維協会は日本経済新聞社と共催で、「先端繊維で未来を創る！」をテーマに、「先端繊維素材展示会（WEB 展示会）」並びに「先端繊維素材シンポジウム」を開催することと致しました。

WEB 展示会は、インターネットのWEB サイト上のバーチャルな展示会であり、日本の先端繊維素材を一堂に集めて情報発信するとともに、商品開発のアイデアが交錯する場を提供しようというはじめての試みです。

先端繊維素材は様々な可能性を秘めており、我々素材メーカーが気付かない応用領域がまだまだ数多くあります。WEB 展示会やシンポジウムを通じて、異業種産業等幅広いユーザーに先端繊維素材のポテンシャルを知っていただき、その結果、ユーザー産業と素材メーカーが様々な領域で協力して開発を進め、新たな価値を社会に提供していきたいと考えています。

<WEB 展示会併催・先端繊維素材シンポジウムの開催経緯と概要>

1. 開催経緯

日本の化繊業界は、製品輸入の増加による生産量の縮小、中国を代表とする新興国の拡大とキャッチアップなど厳しい局面が続いていますが、一方で、環境、安全・安心意識の高まりで日本の化繊産業が得意とする先端繊維素材が注目を集め、需要拡大期を迎えています。

このような状況下、昨年度行った化繊協会のあり方検討において、今後協会に求められる機能として、

- ①会員各社が進める先端繊維素材の優位性を高める為の、技術開発、商品開発、市場開拓努力をサポートし、日本化繊産業の継続的な発展を図ること、
- ②日本化繊産業の先進性を強くアピールし、世界の先端繊維素材開発のセンターとしてのプレゼンスを不動なものとする事、
- ③加えて、社会全般に日本化繊産業が環境への適応性を有し、新しい時代を開く未来型産業であることを広く告知すること、

が掲げられました。

このような会員ニーズに対応するため、今年度活動方針に「発信事業」を掲げ、イベント内容の具体化について検討してまいりました。

2. 全体概要

(1) イベント名称

「WEB 展示会併催・先端繊維素材シンポジウム」

～先端繊維で未来を創る！～

- ・先端繊維素材展示会（WEB 展示会）
- ・先端繊維素材シンポジウム

(2) 開催体制

- ・主催：日本化学繊維協会、日本経済新聞社
- ・協力：炭素繊維協会
- ・特別協賛：カケンテストセンター

- ・協賛：帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、
セーレン、ダイワボウ、カネカ
- ・後援：経済産業省(予定)、繊維学会、日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会

(3) イベント概要

①先端繊維素材展示会（WEB 展示会）

日本化学繊維協会を構成する先端繊維素材メーカー（10社）と関係団体が集結して、計130点余りの先端繊維素材・関連技術を紹介します。

各社の展示ブースのほか、バーチャルな展示会である特徴を活かし、出展している先端繊維素材の検索が可能となっており、「機能で探す」、「用途で探す」ことが出来るようになっています。

あわせて、繊維が衣料だけではなく、また衣料分野でも機能性を活かした様々なシーンで人々の生活を豊かにしていることを理解していただくため、先端繊維素材が「こんなところにも使われている」ということを解説します。

- ・開催期間：2013年1月21日(月)～3月31日(日)
- ・場所：インターネット（日経電子版）上の特設サイト
(<http://ps.nikkei.co.jp/webten2013/>) から、どなたでもご覧いただけます。

②先端繊維素材シンポジウム

WEB 展示会と連動して、産学官の幅広い方に登壇頂く「先端繊維素材シンポジウム」を下記のとおり開催します。

- ・開催日時：2013年2月19日(火) 13:00～17:10
- ・場所：日経ホール(東京・大手町)
- ・収容人員：約600名（事前登録制、入場無料）
- ・参加申込み：1月21日(月)～31日(木)まで、WEB 展示会トップページ、
又は (<http://adnet.nikkei.co.jp/>) からお申込みいただけます。

・プログラム：

プログラム		
13:00～13:10	開会挨拶	坂元龍三 日本化学繊維協会会長
13:10～14:00	I. 基調講演 1「日本の成長と先端繊維素材」	伊藤元重氏 東京大学大学院経済学研究科教授
14:00～14:40	II. 基調講演 2「先端繊維素材がひらく未来」	平井利博氏 繊維学会会長
14:40～14:55	(休憩)	
14:55～15:40	III. プレゼンテーション「先端繊維素材への期待」	
(15分)	①「復興日本及び環境・エネルギーの課題と先端繊維への期待」	塚田高明氏 鹿島建設(株)常務執行役員
(15分)	②「先端繊維による次世代モビリティの創造」	石川隆司氏 名古屋大学工学研究科教授
(15分)	③「安全・安心で快適な未来創りに向けて」	田村照子氏 文化学園大学服装学部教授
15:40～17:00	IV. パネルディスカッション 「先端繊維素材による、安全・安心で活力ある未来創り」	コーディネーター：濱田州博氏（信州大学繊維学部長）、 パネラー： 「III」のプレゼンター（3名）、 片岡進氏（経済産業省製造産業局繊維課長、大松沢明宏（日本化学繊維協会技術グループ主席部員）
17:00～17:10	閉会挨拶	上田英志 日本化学繊維協会副会長

以上